

大阪難波にある夜のユースセンターを 利用する子ども若者の調査

(大阪市・認定NPO法人D×Pの連携による共同調査)

200人の若者の声を集めました



10代をひとりにしない
認定NPO法人 D×P

趣旨

大阪有数の繁華街である大阪難波（ミナミ）のエリアには、虐待や経済困窮などを背景に家庭に居場所がなく孤立する子ども・若者がSNSを介してつながり集まっています。繁華街はかれらの居場所となっている一方で、犯罪や金銭被害、性加害などのさまざまなトラブルにも遭遇しています。

認定NPO法人D×Pが運営する「夜のユースセンター」は、そうした繁華街における、子ども・若者のあらたなセーフティネットとなることを目指して設立されました。必要に応じて医療機関や福祉制度などにすぎ、かれらの自立をサポートします。

概要

【名称】 ユースセンター

【運営団体】 認定NPO法人D×P（ディーピー）

※2024年度は主に寄付により運営している。

【開設日】 2023年6月27日

【場所】 住所非公開（道頓堀/グリ下付近から徒歩数分）

【開所時間】 週2回・16時～22時 ※時間帯や開所日の変動あり

【対象】 原則13～25歳までの子ども・若者

【機能】

- ① エネルギーをためられる（食べる・仮眠できる・相談できる）
- ② 自分の意見が尊重される
- ③ 自立に向けて一緒に考えてくれる人とつながる（個別相談や同行支援）



夜のユースセンターで得られるもの

エネルギーを ためられる

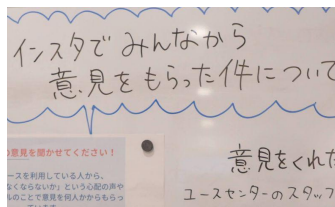
(食べる・仮眠できる・相談できる)



おうちで得られるかもしれなかったものをチャージ

- ✓あたたかいごはん
- ✓仮眠（出勤前に仮眠するなど）
- ✓クリスマスなどの季節的な行事やゲーム/音楽など

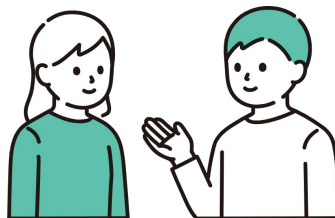
自分の意見が尊重される



「自己決定」の経験を得る/
本人がもともと持つ力を奪わない関わり

- ✓ユースセンターの運営・備品に対する意見を言える
- ✓自分の意見や声が反映されている実感を持つ
- ✓一緒に企画をつくったり、掲示物をつくる

自立に向けて一緒に 考えてくれる人とつながる



ひとりひとりの望む状態を聞く

- ✓個別相談や同行支援：スタッフと生活について話しあう/一緒に病院や自治体に行き、他の機関とつながる
- ✓助産師や自治体職員など専門家が来訪し相談対応

概要・目的

当調査は認定NPO法人D×P（ディーピー）が運営する「ユースセンター」を利用する若者に対するアンケート調査である。

道頓堀川の戎橋近くにある「グリコ」看板下を含む、大阪難波の繁華街に集まる若者の属性や背景を知ることが目的とし、大阪市と連携して認定NPO法人D×Pが調査を実施した。

調査対象

認定NPO法人D×Pが大阪・難波で運営する「夜のユースセンター」利用者

回答者数

期間中利用者 262人のうち200人が回答（回答率76%）

アンケート期間

2024年7月26日から2024年10月12日

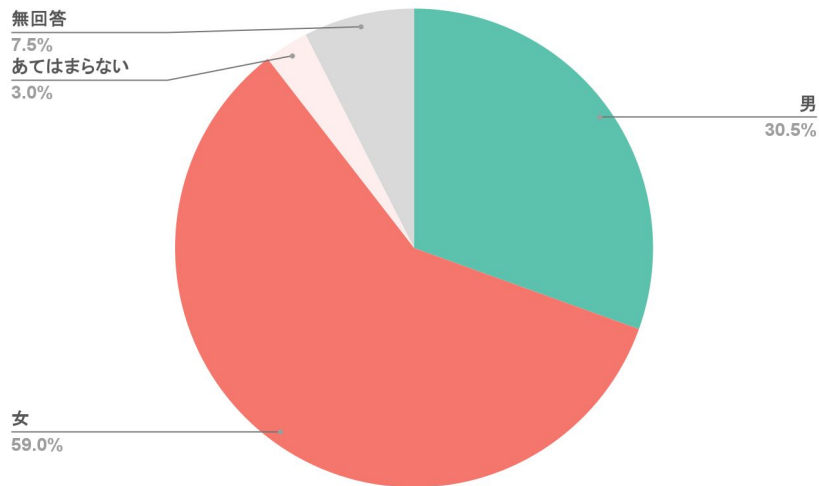
回答者200人の属性



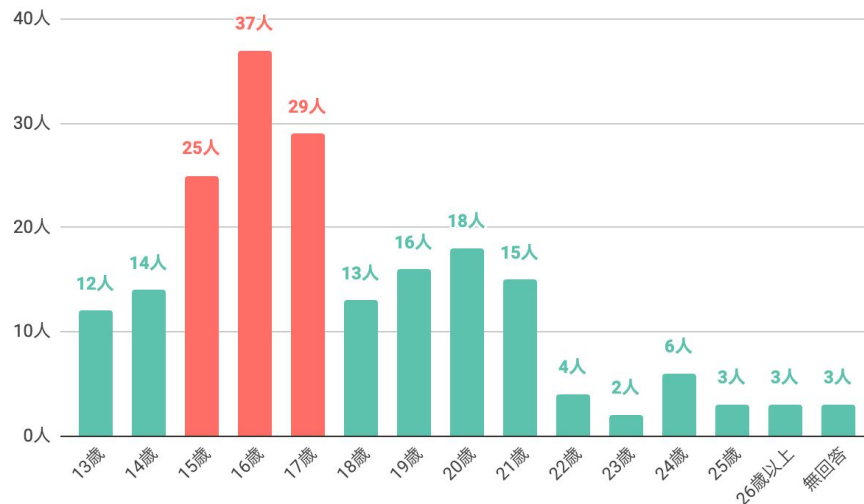
平均年齢は17.6歳

「男性」を選んだ方の平均年齢は19.1歳／「女性」を選んだ方の平均年齢は16.7歳

性別



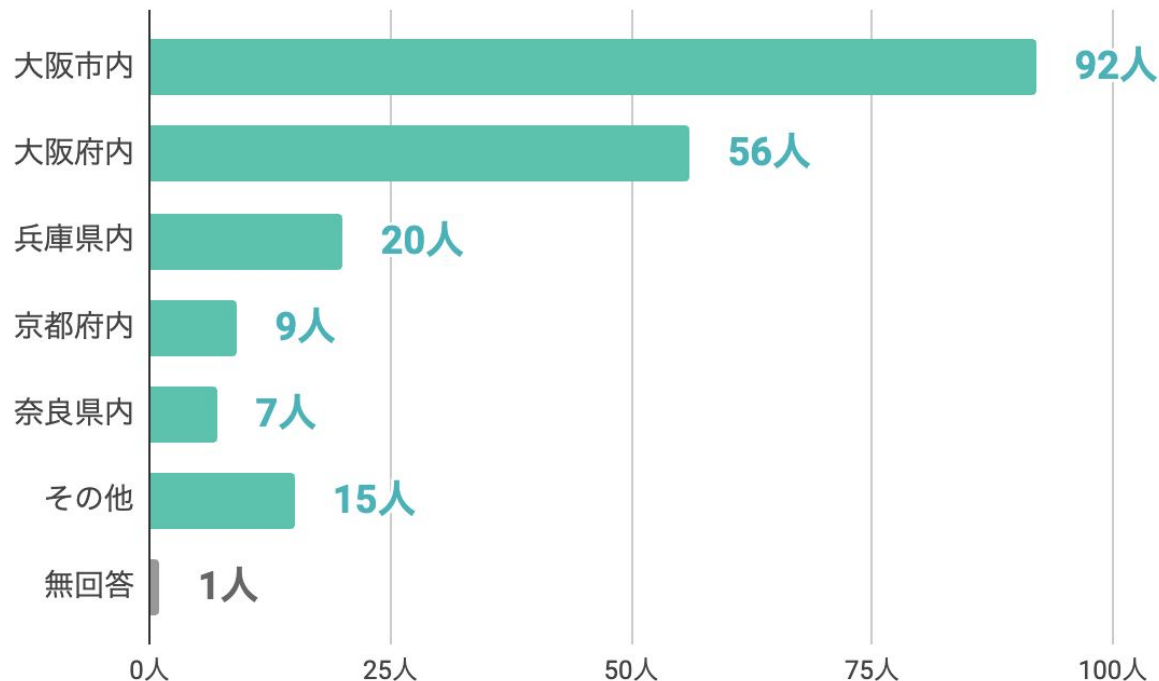
年齢



夜のユースセンターの利用者のおもな住まい (n=200)



回答者の45%以上が大阪市内在住の子ども・若者であり、大阪府内を含めると74%になる。

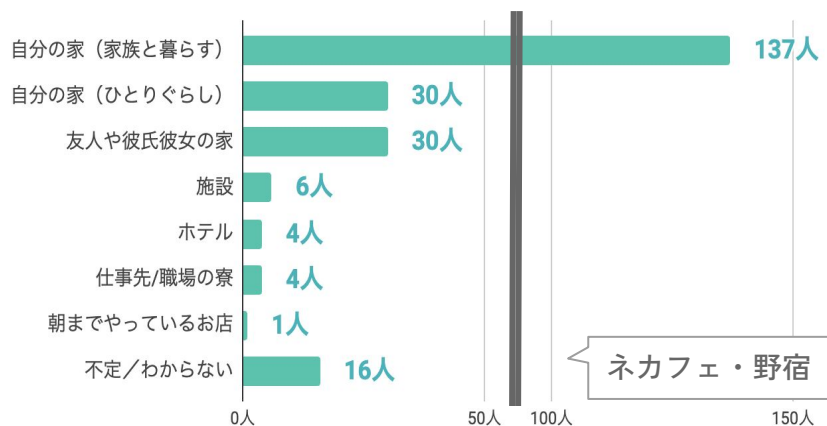


直近1ヶ月、おもにどこで寝泊まりしていたか (n=200、複数回答)

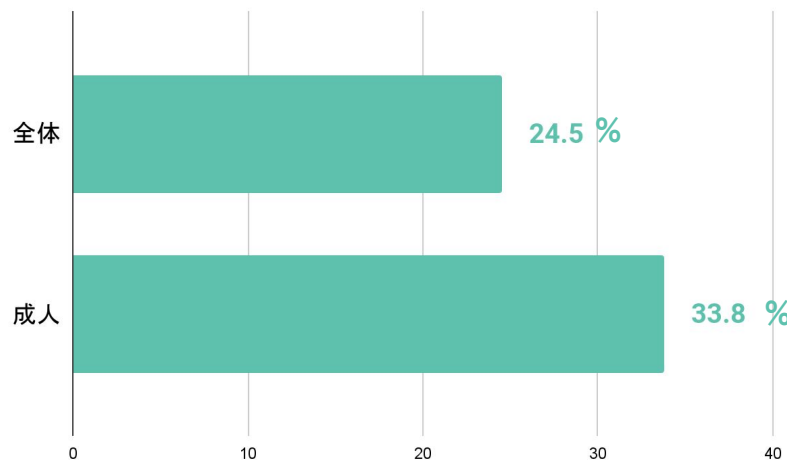


直近1ヶ月の寝泊まりしていた場所で最も多いのは「家族と暮らす自分の家」137人、次いで「ひとりぐらしの自分の家」30人、「友人や彼氏彼女の家」30人だった。「不定/わからない」は16人。全体の24.5%、18歳以上の33.8%は自宅や施設以外の場所（ホテル・終夜営業店・仕事先・友人宅・その他不定な場所）でも寝泊まりしている。

Q.直近1か月、おもにどこで寝泊まりしていましたか？



複数回答のうち、自宅や施設以外の場所を1つでも答えた人の割合



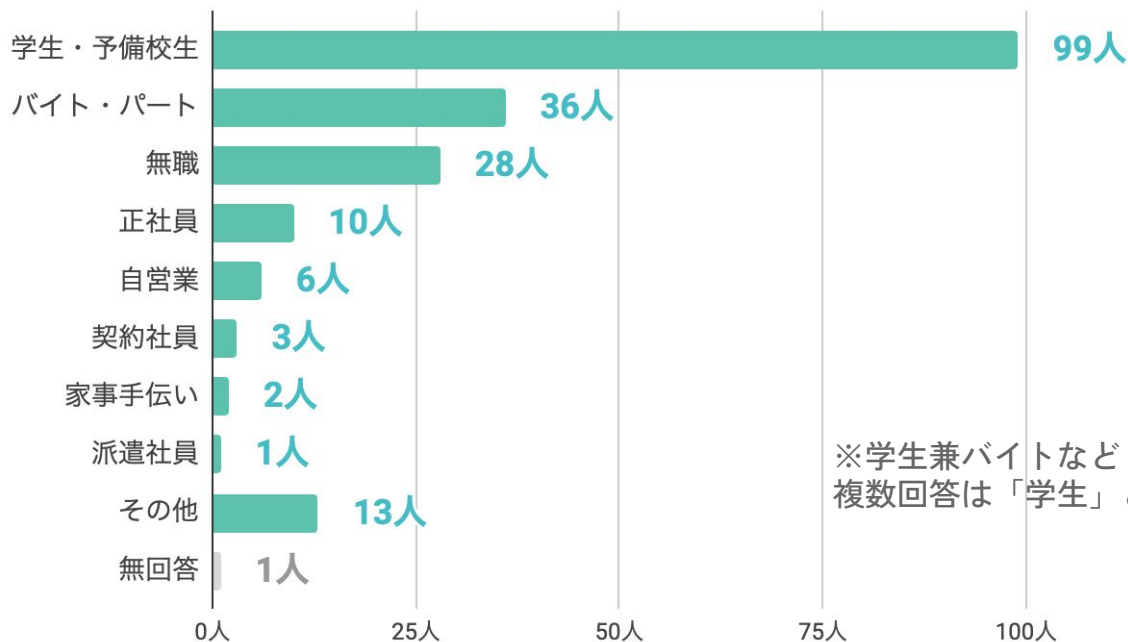
※重複回答をのぞいているため、左グラフの合計数とは異なります

現在の仕事 (n=199)



「学生・予備校生」が最も多く99人、次いで「バイト・パート」36人、「無職」28人となった。

Q.あなたのお仕事について、あてはまるものをえらんでください



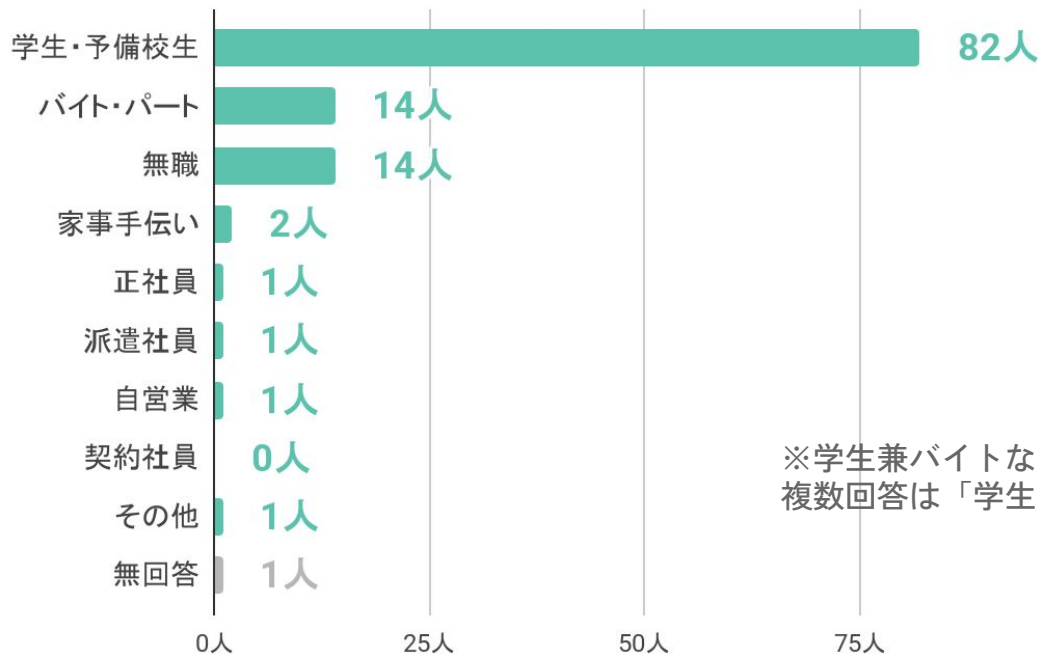
※学生兼バイトなど「学生」を含む複数回答は「学生」としてカウント

現在の仕事（18歳未満・未成年の場合）（n=117）



18歳未満の未成年の場合、「学生・予備校生」と回答した者が82人と最も多く、次いで「バイト・パート」14人・「無職」14人となった。

Q.あなたのお仕事について、あてはまるものをえらんでください



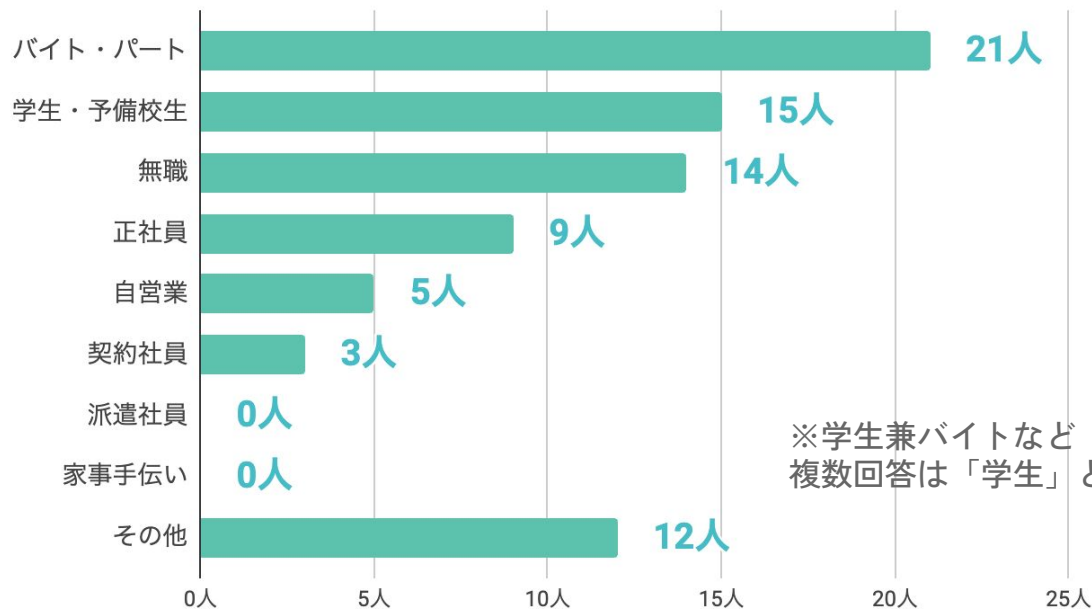
※学生兼バイトなど「学生」を含む複数回答は「学生」としてカウント

現在の仕事（18歳以上・成人の場合）（n=79）



18歳以上の成人の場合、「バイト・パート」と回答した者が21人と最も多く、次いで「学生・予備校生」15人、「無職」14人となった。

Q.あなたのお仕事について、あてはまるものをえらんでください

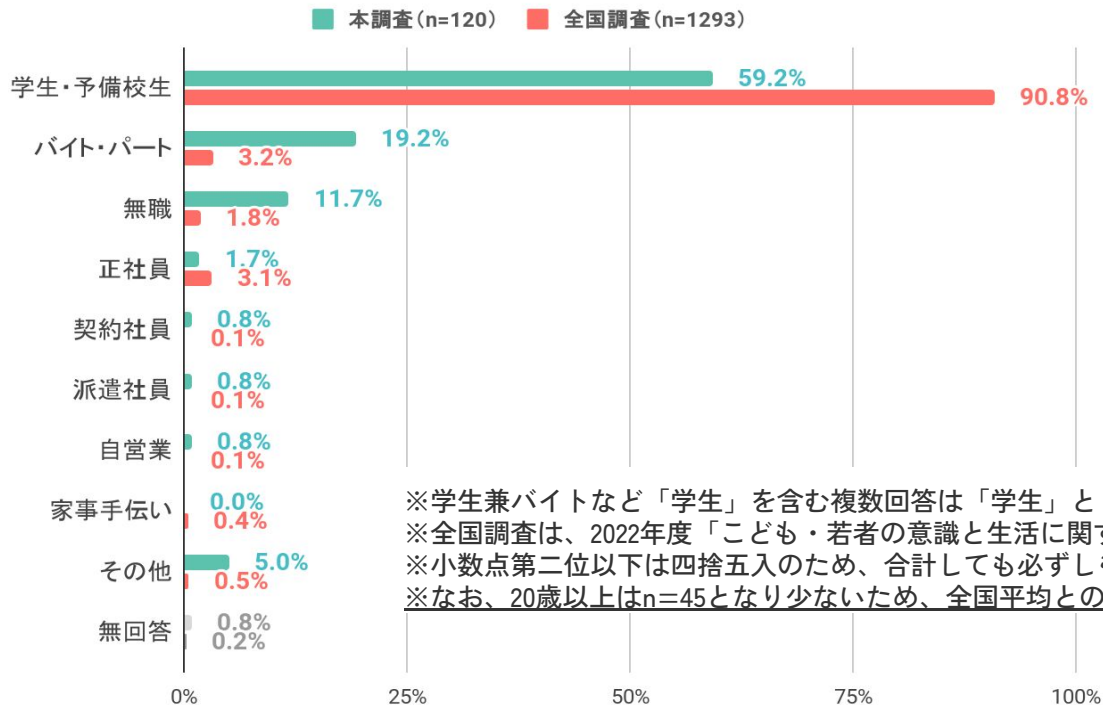


※学生兼バイトなど「学生」を含む複数回答は「学生」としてカウント

就業状況の全国平均との比較(15-19歳)



全国調査における15-19歳の就業状況と比較すると、全国調査では対象年齢の90.8%が「学生・予備校生」だが、本調査では59.2%。全国調査では3.2%が「バイト・パート」だが、本調査は19.2%となる。



※学生兼バイトなど「学生」を含む複数回答は「学生」としてカウント

※全国調査は、2022年度「こども・若者の意識と生活に関する調査」(こども家庭庁)より

※小数点第二位以下は四捨五入のため、合計しても必ずしも100とはならない。

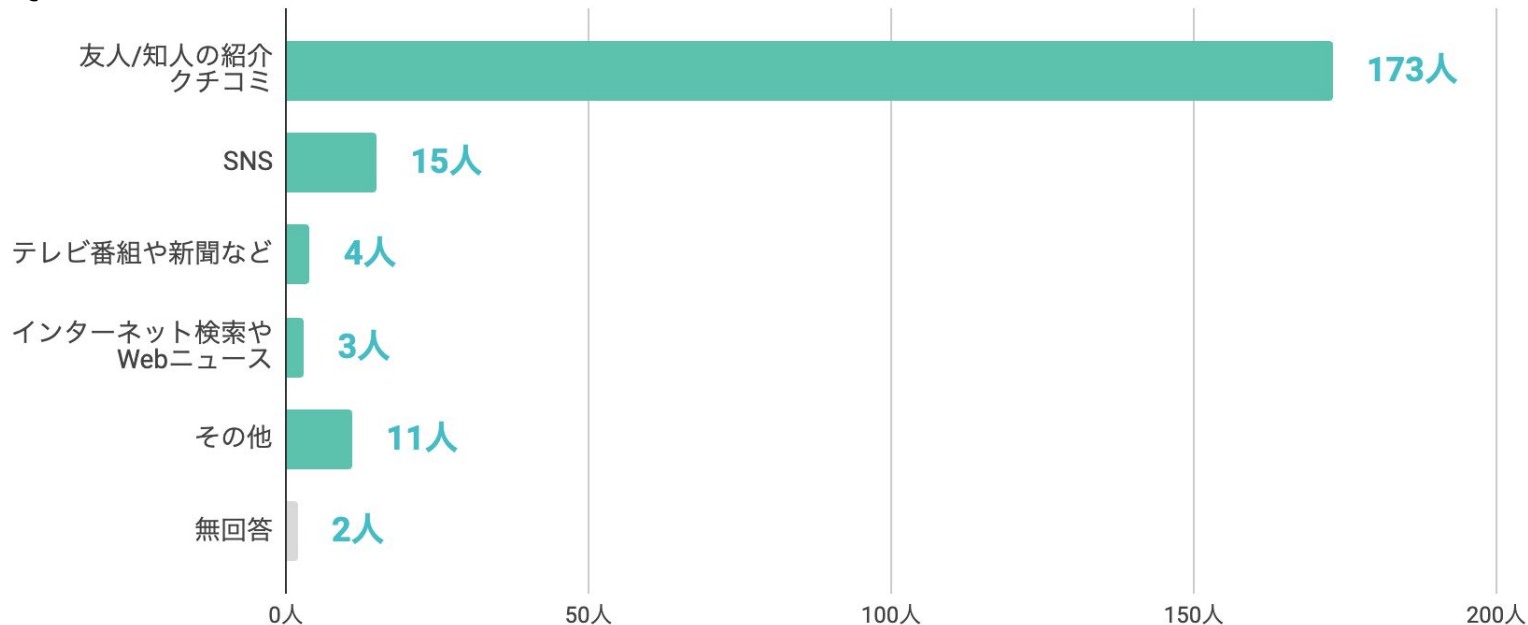
※なお、20歳以上はn=45となり少ないため、全国平均との比較は行っていない。

夜のユースセンターを知った経路 (n=200、複数回答)



夜のユースセンターを知ったきっかけは「友人・知人の紹介/クチコミ」が173人（86.5%）である。

Q.あなたはどのようにユースセンターを知りましたか？

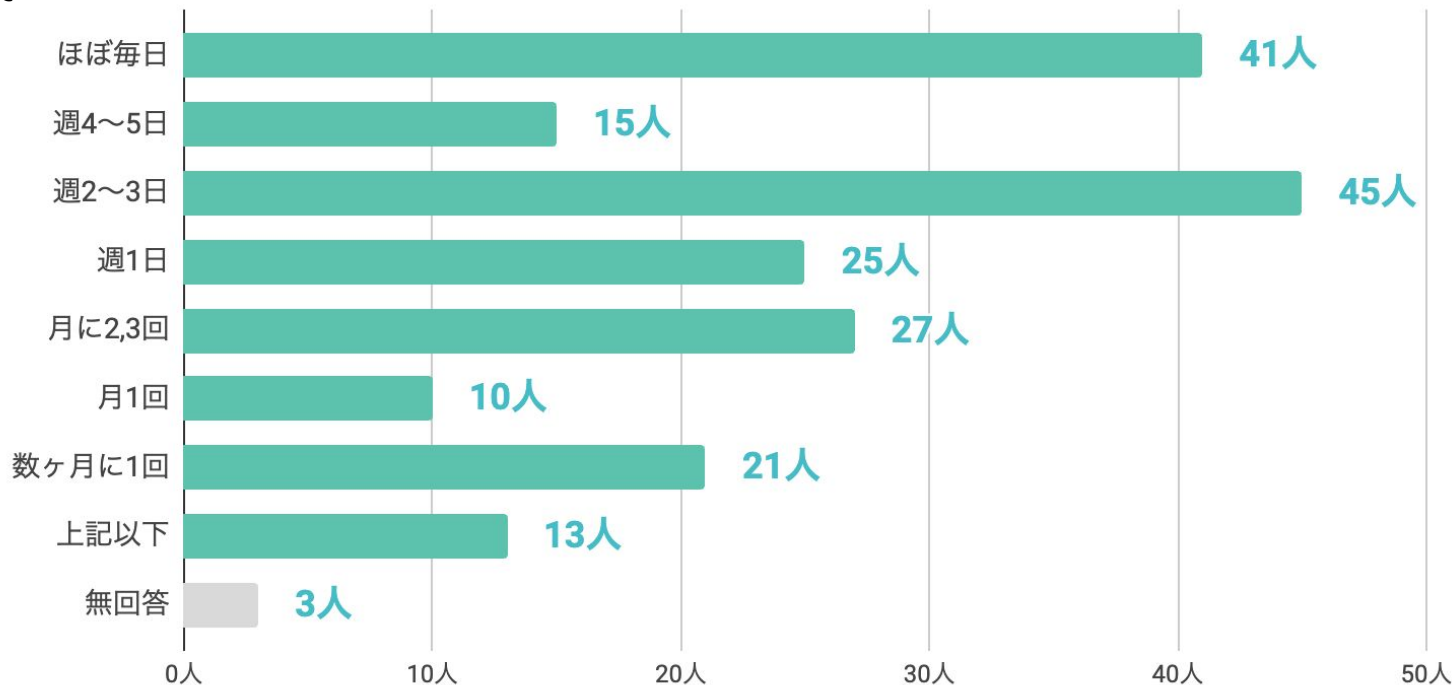


ミナミ（繁華街）に行く頻度（n=200）



ミナミに行く頻度は「週2～3日」45人が最も多く、次いで「ほぼ毎日」が41人。なお「ほぼ毎日」には、その地域に住んでいる人も含まれる。ユースセンター利用者の28%が週4日以上ミナミに行っている。

Q.あなたはふだん、ミナミ（繁華街）にどのくらい行きますか

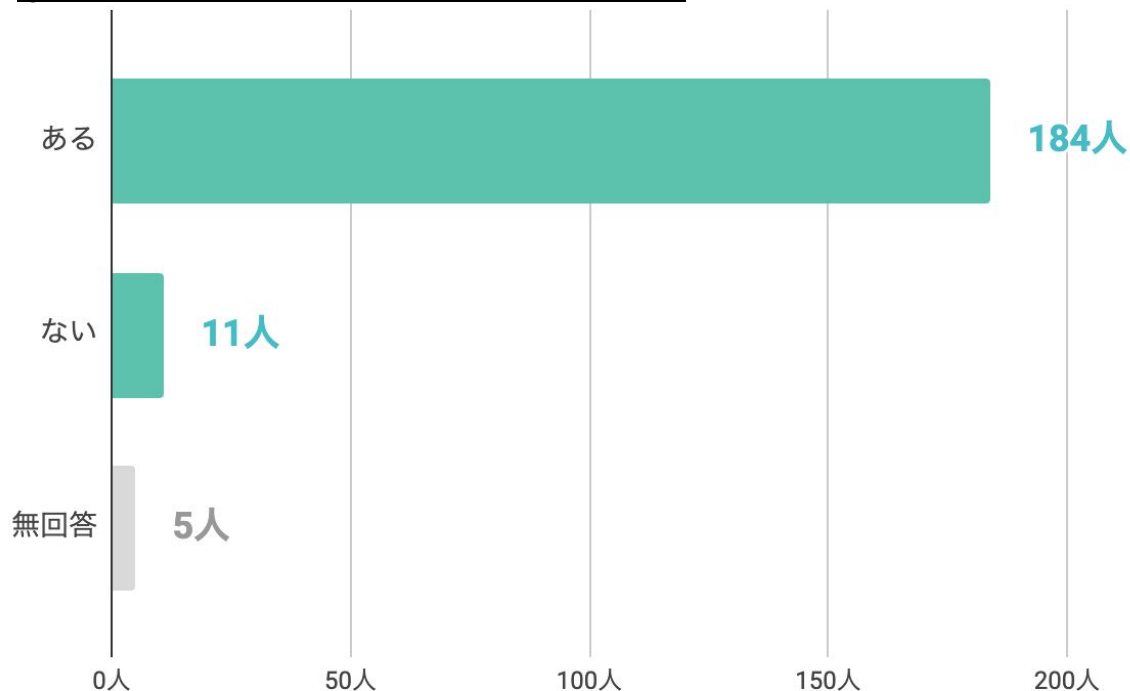


グリ下（橋下）に行ったことがあるか (n=200)



夜のユースセンターの利用者（本調査回答者）のうち、92%が「行ったことがある」と回答。

Q.あなたはグリ下（橋下）に行ったことはありますか？



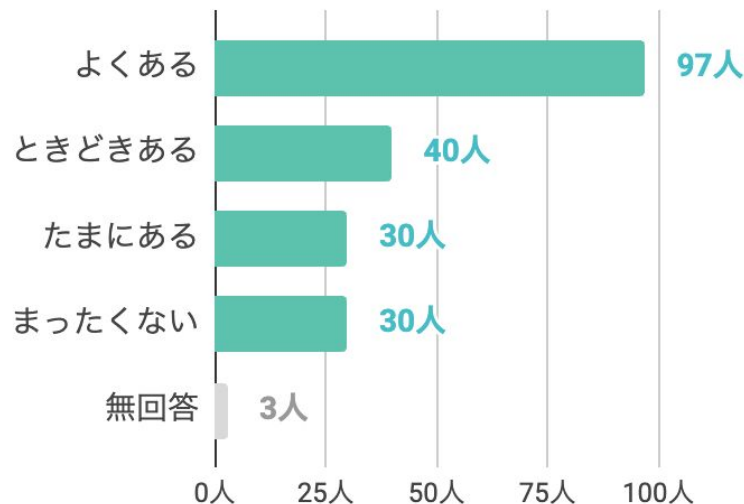
不安になる・無関心になる時はどれくらいあるか (n=200)



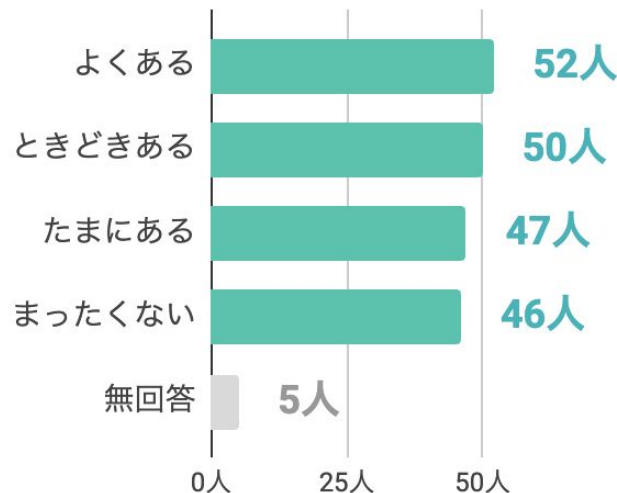
メンタルヘルスに関連する質問を行った。「すぐ不安になる」に対し「よくある」と回答した人が97人と最も多かった。「何にも興味が持てない」はすべての項目に一定数からの回答が得られた。

Q.あなたは、次のようなことを感じる事が、どのくらいありますか？

すぐ不安になる



何にも興味が持てない

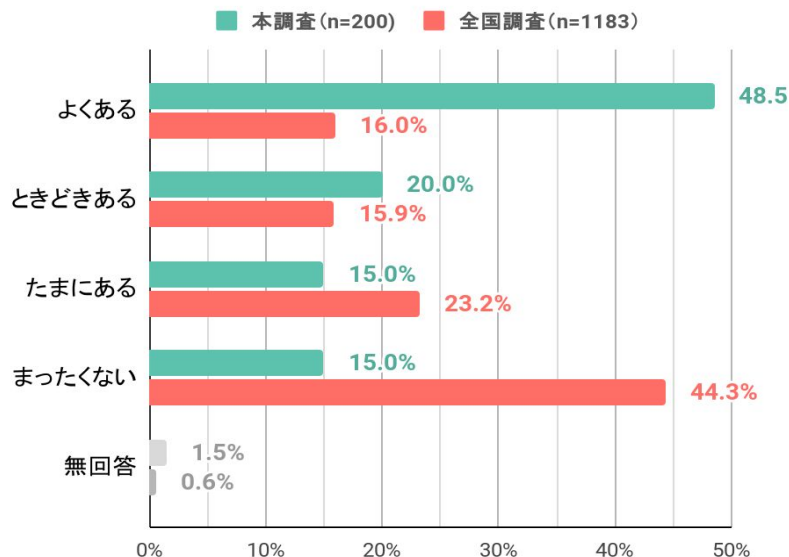


メンタルヘルスに関する、全国平均との比較

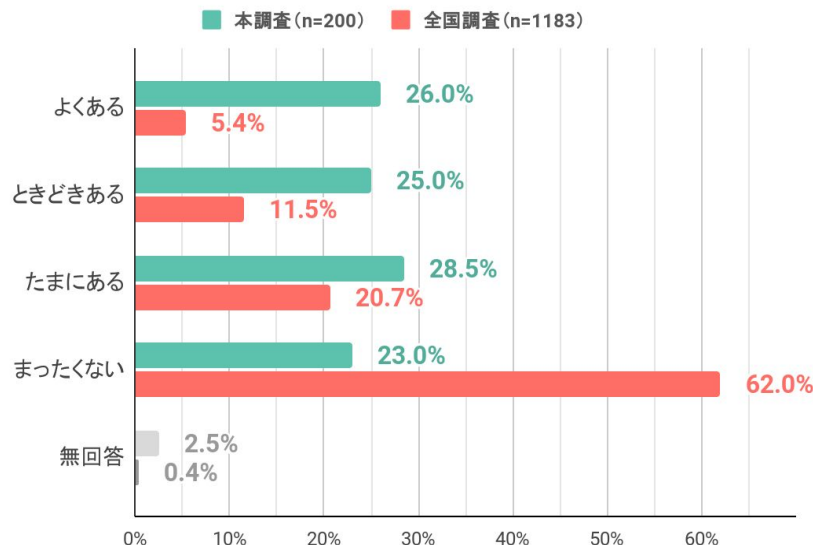


全国調査と比較すると、全国調査では「すぐ不安になる」に対し「まったくない」が44.3%・本調査では15%。全国調査では「何にも興味が持てない」に対し「まったくない」が62%、本調査では23%。

すぐ不安になる



何にも興味が持てない



※2022年度「中学生・高校生の生活と意識調査2022」(NHK)よりを引用

※本調査は13-27歳(うち68.5%が未成年で中学生・高校生年代)だが、全国調査は中学生・高校生である。

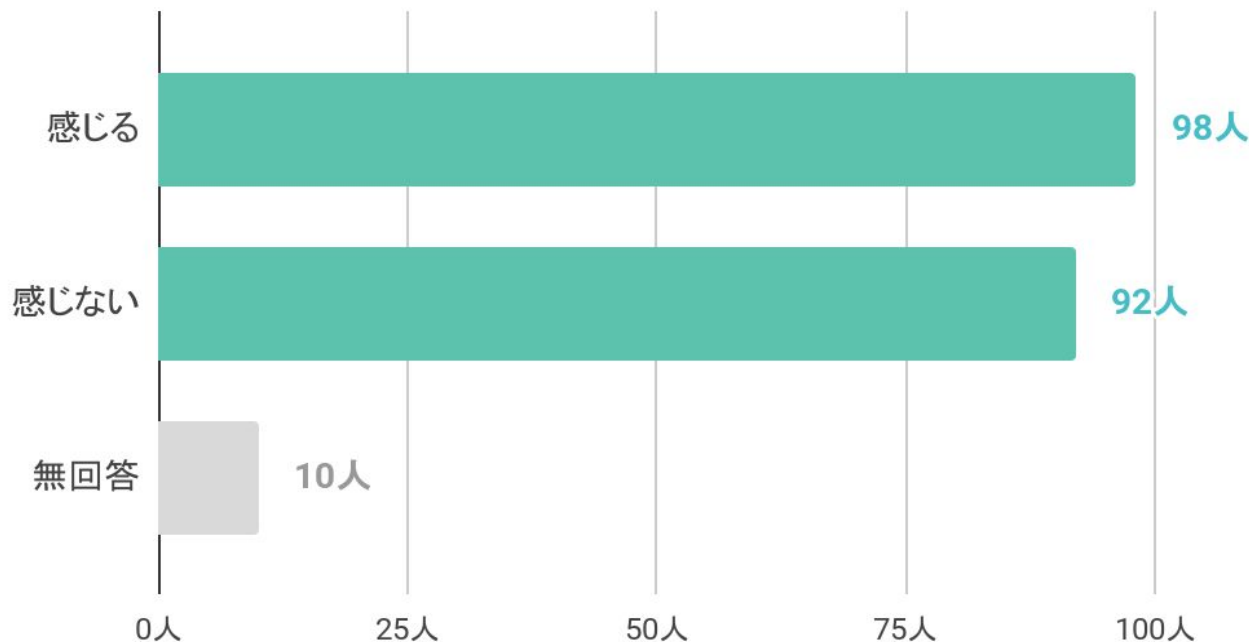
※小数点第二位以下は四捨五入しており、構成比を合計しても必ずしも100とはならない。

育った家庭・施設を自分の居場所と感じるか (n=200)



育った家庭や施設を自分の居場所だと感じる人は49%、感じない人は46%となった。
18歳以上の成人の場合、育った家庭や施設を自分の居場所だと感じない人は53.8%になる。

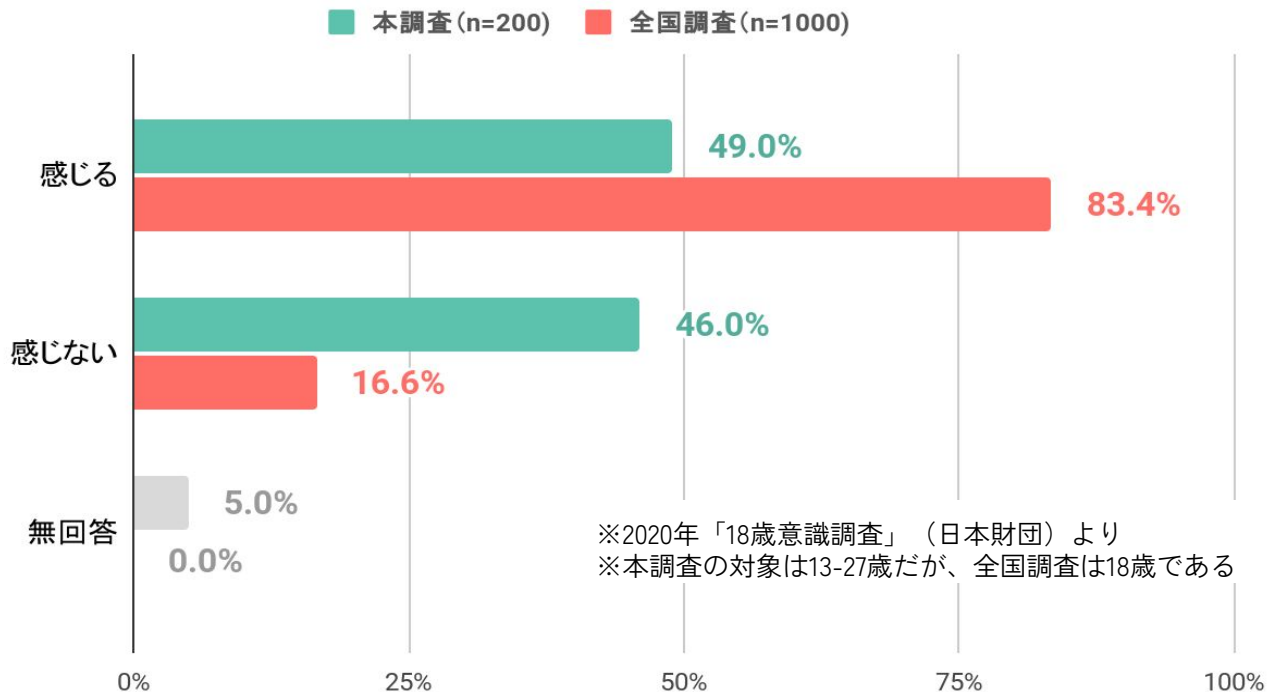
Q.育った家庭（育った施設など）を自分の居場所だと感じますか？



家庭を居場所と感じるか、全国平均との比較



「18歳意識調査」（全国調査）と比較すると、全国調査では「家庭を居場所と感じる」と回答した人が83.4%に対し、本調査では49%となっている。

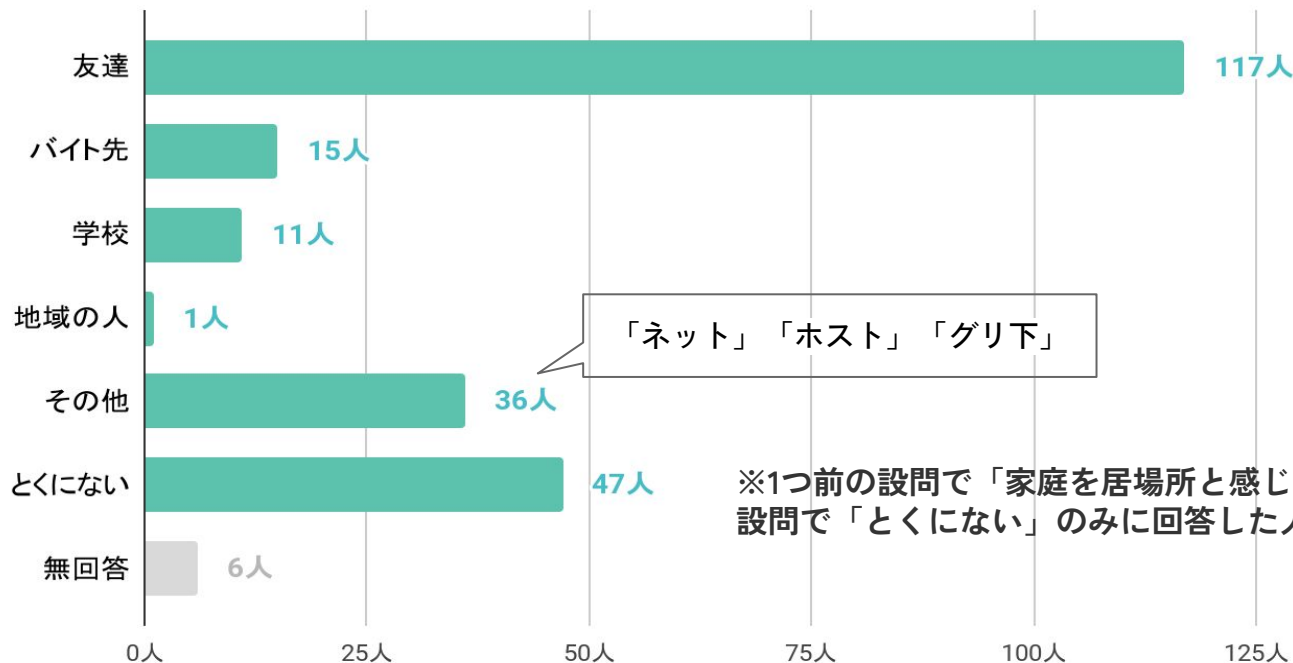


家庭以外で自分の居場所だと感じる場所 (n=200、複数回答)



家庭以外で自分の居場所だと感じる場所として「友達」と回答した人が最も多く117人、次いで「とくにない」と回答した人が47人、「その他」と回答した人が36人となった。

Q.家庭以外で自分の居場所だと感じる場所はどこですか？



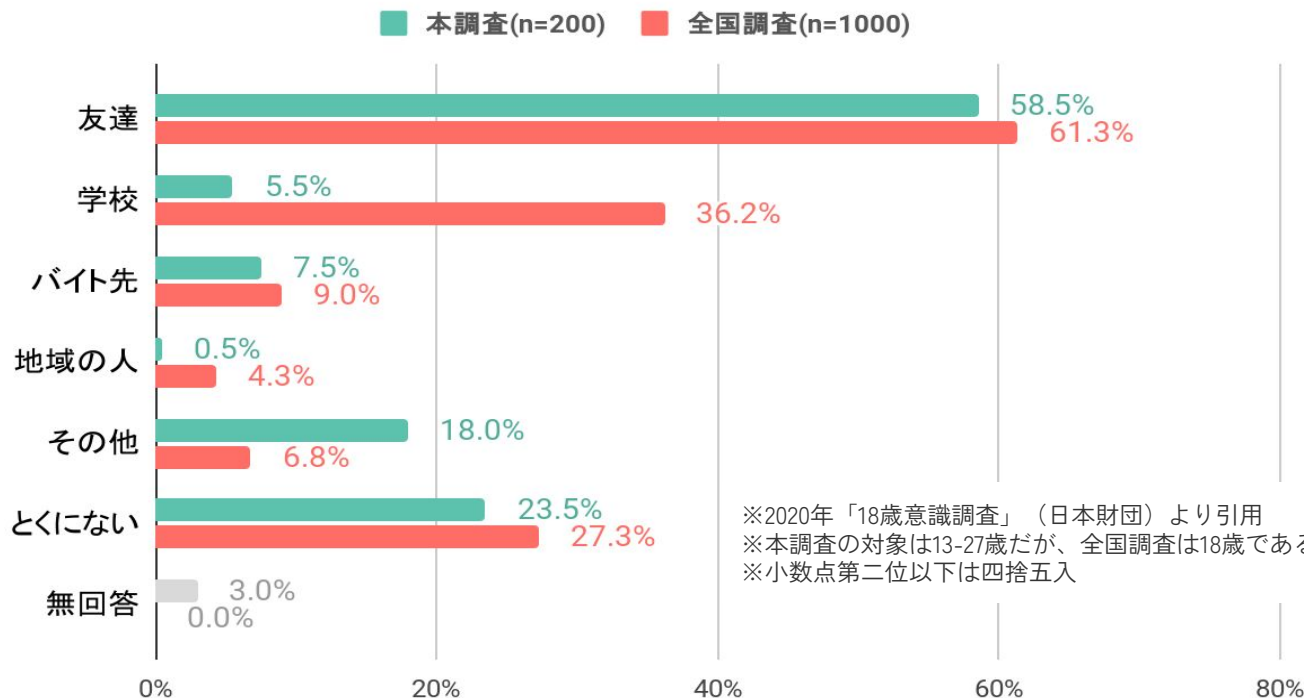
「ネット」「ホスト」「グリ下」

※1つ前の設問で「家庭を居場所と感じない」と答え、本設問で「とくにない」のみに回答した人が30人

家庭以外の居場所について、全国平均との比較(複数回答)



「18歳意識調査」(全国調査)と比較すると、全国調査では「学校」を居場所だと回答した者が36.2%いるのに対し、本調査では5.5%となっている。また、本調査では「その他」が多く18%となっている。

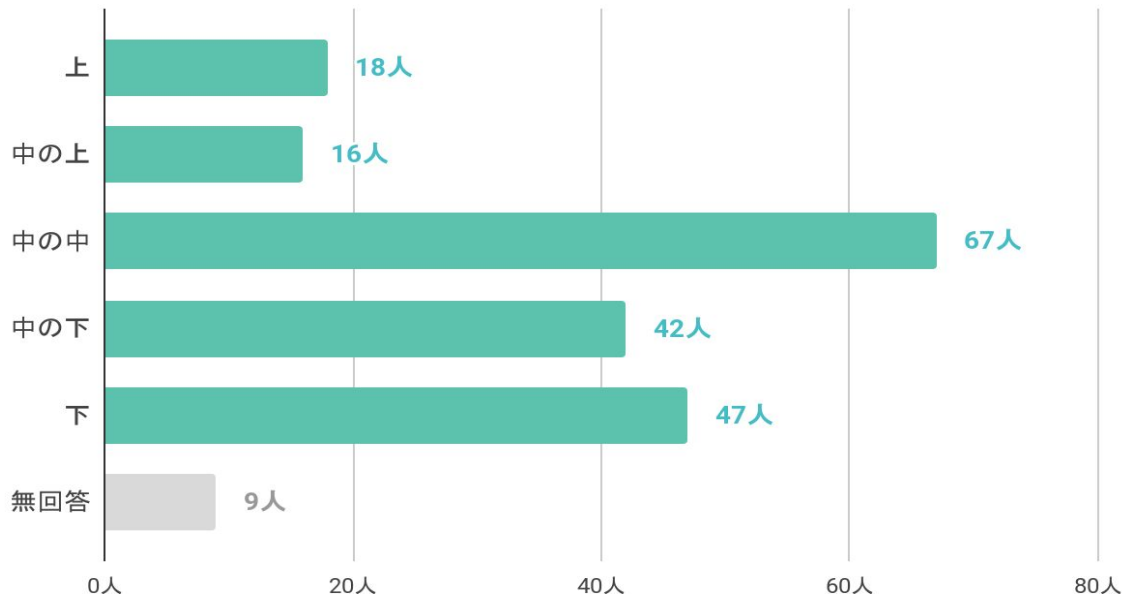


自分の暮らし向きを、世の中の人と比べてどう感じるか (n=199)



自分の暮らし向き（経済状況）が真ん中くらいの「中の中」と回答する者が67人と最も多く、次いで、一番下の「下」が47人となっている。

Q.あなたの暮らし向き（お金のことや経済的な事情）は、世の中のひとたちとくらべてみて、上から下までのどれにあたると思いますか？

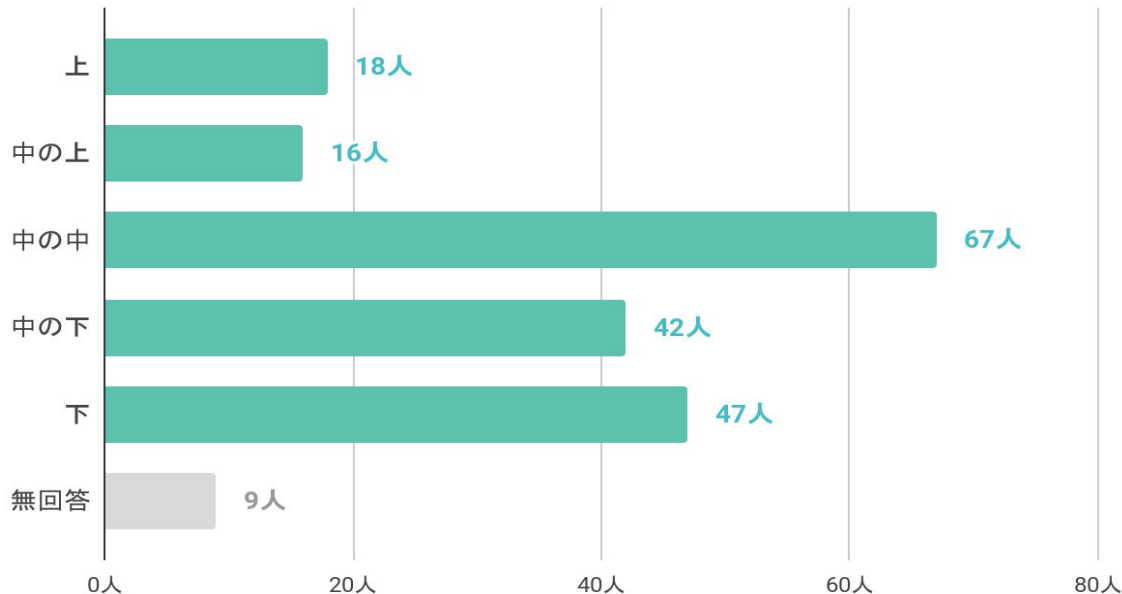


自分の暮らし向きを、世の中の人と比べてどう感じるか (n=199)



自分の暮らし向き（経済状況）が真ん中くらいの「中の中」と回答する者が67人と最も多く、次いで、一番下の「下」が47人となっている。

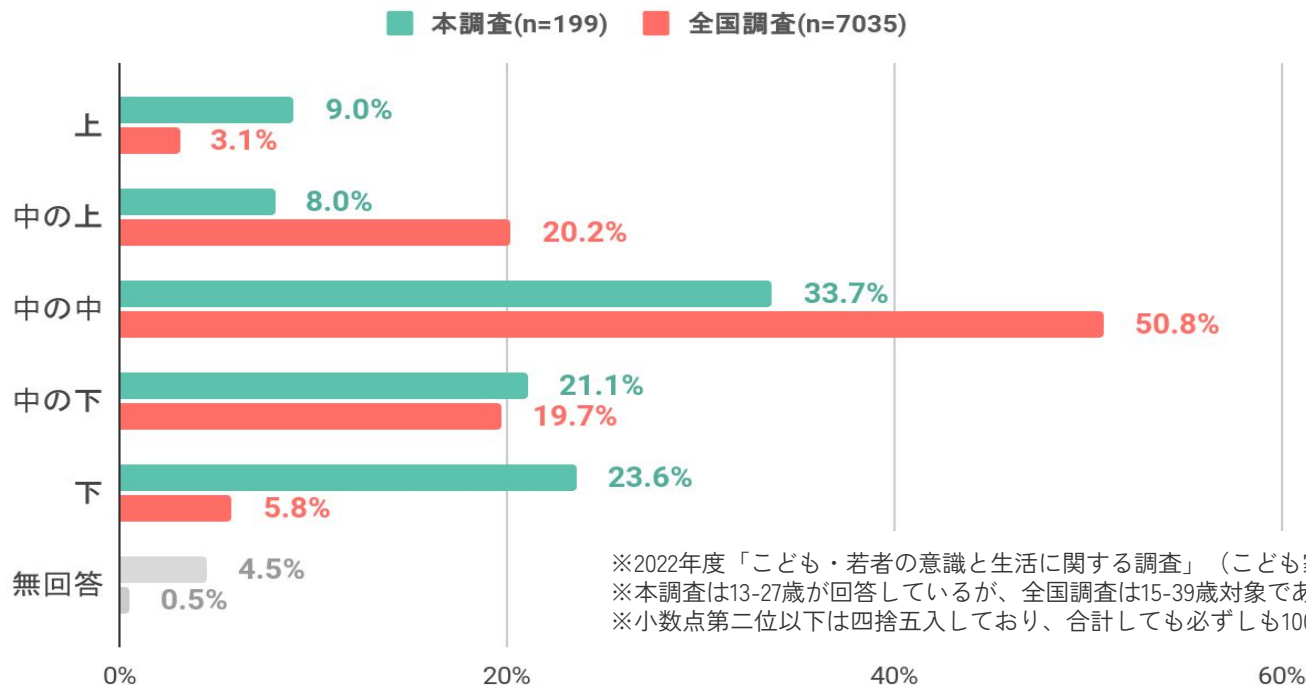
Q.あなたの暮らし向き（お金のことや経済的な事情）は、世の中のひとたちとくらべてみて、上から下までのどれにあたると感じますか？



暮らし向きへの感じ方、全国平均との比較



全国調査では自分の暮らし向き（経済状況）が真ん中くらいと回答する者が50.8%なのに対し、本調査では33.7%となっている。また、一番下と回答する者が全国調査では5.8%なのに対し、本調査は23.6%。

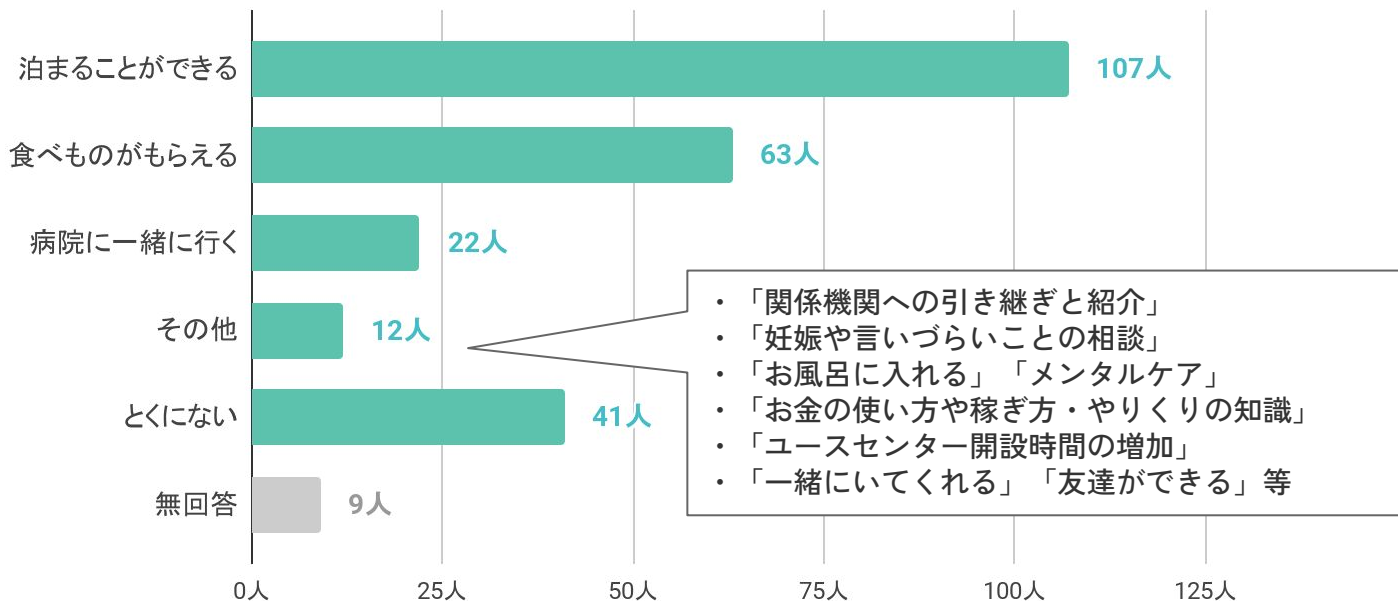


「こんなサポートがあったら」と思うもの (複数回答)



宿泊ニーズが最も高く、53.5%（18歳以上の場合は42.5%）が希望している。
食べ物へのニーズは31.5%（18歳以上27.5%）

Q.あなたが「こんなサポートがあったらいいな!」と思うものはありますか？

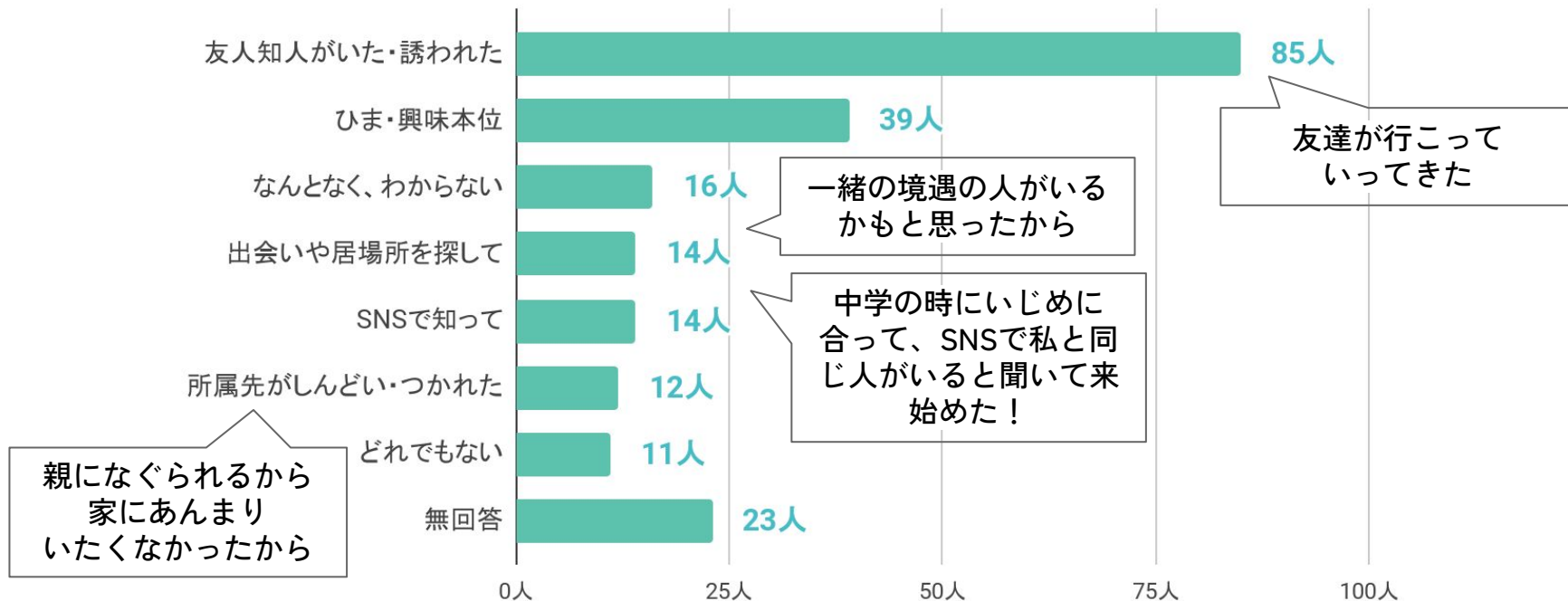


ミナミやグリ下に来るようになったきっかけ



(n=200、自由記述を分類、一部は複合的要因のため複数回答、声は抜粋)

Q.ミナミ（繁華街）やグリ下（橋下）に来るようになったきっかけはなんですか？



まわりのおとなのひとや社会に伝えたいこと



Q.まわりのおとなのひとや社会に伝えたいことがあれば、自由に書いてください。

生きにくい！！

めいれいすんな

家帰りたくない

グリ下サイコー！

さびしいし、しんどい

社会はゴミ

税金高い。就活厳しすぎる。

好きなようにさせてくれ！！

理由があって、こりつしてる人へ目を向けて

生きやすい社会にしてください

お家に帰せばいいと思わないでー！！

ユースみたいな所、増えてほしい

私の仕事に対して偏見持たないで欲しい

未成年の居場所がない子たちを見守れる場所を増やして行って下さい。

グリ下おるからっておる人全員わるい人っておもうな！！

頑張っている事を認める事よりも見捨てる大人が多すぎる

グリ下の子の居場所をけさないであげてほしい

警察も橋の下にいる子ども達によりそってあげてほしいってなる

認めて欲しい

わくではんだんしないでほしい

グリ下はいばしょであり、犯罪などにあこがれてくる場所ではないから
メディアに犯罪やODをしている場所として報道しないでほしい

なんでもすぐきめつけないでほしい。
話をきいてほしい

いじめとかぎゃくたいとかなくしたい言ってるのに
その大人達がしらぬふりして大人達は無責任なことしかいわないね

自由記述で回答した
81人の記述から抜粋

今の私を、認めてくれて、たくさん話しかけてくれて、大切に怒ってくれる人や、
好きになった人がいるから、グリ下をぬけれなくて